

KiKiの広場

2013年 11月 1日

cafe NO.37
KiKi



オープン当初からあるアーチ横のフェイジョアの木。昨年の今頃はたくさんの実がなっていました。今年は数えるほどしかありません。そう言えば花もあまり咲きませんでした。多くの台風や気候のせいではなく、俗に言う裏の年なのかもしれませんが、なんとも寂しいかぎりです。ただ、そのわずかになった実は、これまで見たことのないほどの大きさに成長しています。その姿を見る限り、やはり生き物の生命力ってすごいなって感じます。さて、そのお味はどうでしょうか?(*^_^*)

11月の予定

12日(火) 休館日



🍰「今日のケーキ」・・・「バナナキャラメルケーキ」350円 🍰

生のバナナを練り込んだ生地、キャラメル生地を挟み込んでこんがり焼き上げ、しっとりなめらかな生地とクランブルのサクサクとした食感が特徴です。温めるとバナナとキャラメルの甘い香りが一層引き立ちます。



今月のお気に入り・・・「深まる秋に読みたい本」

～ 「おぼけリンゴ」「オーケストラの105人」「いすのパンシ」「セロひきのゴーシュ」「まほうのえのぐ」 などなど ～



ドイツの絵本作家ヤーノシュの「おぼけリンゴ」は、貧乏なワルターという男が主人公。一度も実をつけたことのないリンゴの木に、ある日たった1つリンゴがなって・・・大切に大切に育てたその結果、予測のつかない展開に・・・。お話も面白いですが、ちょっぴり寂しげなワルターの表情、少し抑えた色彩と素朴で哀愁漂うタッチ、ヤーノシュの味わい深い絵にも惹き込まれていきます。

秋の夜長に素敵な音楽を聴きながら読みたいのが、「オーケストラの105人」です。お話は、金曜日の夜、演奏会の数時間前から始まります。人間味あふれる105人が、「音符が書かれた楽譜をシンフォニーにかえるため」(なんてしびれる言葉でしょうか!)演奏会場にやってくるまでの様子を楽しく描かれています。最後のページをめくると、本当に穏やかで優しさに包まれた音楽が聴こえてくるようです。



今月の本棚・・・「五味太郎の世界」

～ 「いっほんぼしわたる」「さる・るるる」「テレビくにきをつけて」「きんぎょかにげた」「みんなうんち」 などなど ～



五味太郎さんと言えば、知らない人はいないでしょう。その著作は450冊を越えるとのこと。その中でも私が大好きなのは、「いっほんぼしわたる」です。ただ丸太の橋をいろいろな生き物が渡るというとてもシンプルなお話ですが、渡り方にもいろいろあって・・・渡る必要のないものが渡ったり、渡るはずがないものが渡ったり、最後のシーンも「もう!五味さん!!」って感じでめちゃくちゃ楽しいです。あるインタビューで、「絵本を描くのは趣味。子どものためではなく、僕の表現が好きな人のために描いている。たまたまその趣味に合ったのが、幼い人たちが多かっただけ。子どもの頃とか大人になってからとか関係なく、生まれてからずっと五味太郎として生きている。」と。まさしく世代を超えた根強いファンが多くいる所以かなと思いました。

ほっとフレイク

学生さんかなと思われる若いカップルがご来店。2人して本棚の前に直行し、「これ子どもの頃大好きだった。」などと言いながら、それぞれに絵本を選んで席につかれました。まずどちらかが選んだジョン・バーニングガムの「ガンピーさんのふなあそび」を一緒に読まれました。するとその後手に取った絵本も、バーニングガムのものだったようで、同じ作者の絵本と気づくと、「だからガンピーさんだったんだあ!」と、同じような主人公を見て「やっぱり、ガンピーさんだ!」と、何度も「ガンピーさん」と言いながら、大笑いされていました。こんなに絵本について語りながら、楽しそうに読まれるカップルは初めてで、見ている私も「ガンピーさん」と聞くと思わず笑ってしまいました。(^^)

